

令和元年12月8日

国立公文書館

館長 加藤 丈夫 殿

〒352-0006 埼玉県新座市新座 2-18-15-504

杉原誠四郎（元城西大学教授）

インターネット特別展「公文書に見る日米交渉―開戦への経緯」における疑義と要請

謹啓

78年前の本日、日本帝国海軍がアメリカの真珠湾を攻撃し、日米開戦となったことを思い起こし、また、昨年刊行した阿羅健一氏との共著『吉田茂という反省―憲法改正をしても、吉田茂の反省がなければ何も変わらない』（自由社）において本件について語り合っていますが、本書が本年第2回アパ日本再興大賞を受賞したことに念じて、国立公文書館における、現在公開中の<インターネット特別展「公文書に見る日米交渉―開戦への経緯」>の中の「参考資料室」にある「参考文献」につき疑義があり、ここにその疑義を伝え、その相応の善処を要請することに致しました。

日米交渉に関する「参考文献」においては、多数の研究者の研究書が掲載紹介されていますが、何ゆえか、私が平成9年に刊行した『日米開戦以降の日本外交の研究』（亜紀書房）が掲載紹介されていません。

私のこの著書は以下の点で、日米交渉に関わる極めて重要な文献です。

- (1) 日米交渉において日本側もアメリカの外交電報を一定程度解読していたという極めて重要な史実について、その史実とその史実に基づく展開を詳述した文献です。
- (2) 敗戦直後の昭和21年9月27日に行われた昭和天皇と占領軍最高司令官マッカーサーとの第1回会談に先立つ9月25日、宮中で行われた『ニューヨーク・タイムズ』記者クルックホーンとの面会で、日本海軍の真珠湾攻撃に関わる文書が渡されました。この文書には、日米開戦に当たり、真珠湾攻撃30分前に「最後通告」をアメリカ政府に手交するはずであったところ、当時のワシントンの日本大使館の事務失態によって手交が約1時間30分遅れ、真珠湾攻撃開始約1時間後に手交したことにつき、その原因を東条英機にあるかのように記述されています。クルックホーンに渡されたこの文書は平成18年宮内庁が公開し、それで初めて知られるようになったとされていますが、本書では平成8年に他のところで発見されたものによ

ってその文書を紹介し、その非を詳しく述べています。

- (3) また、「最後通告」手交遅延の事情については、外務省内で昭和21年の時点で若干の調査が行われました。その調査報告書「対米覚書」伝達遅延事情に関する記録は長く公開されず、平成3年の真珠湾攻撃50周年の際にも外務省によって公開されませんでした。外務省はこの報告書を平成6年の時点について公開しますが、本書は、その公開に向けての著者杉原の外務省との折衝の過程と、この報告書の詳しい解説を記述しています。
- (4) さらに、本書は英語訳のほか、中国語訳、韓国語訳があり、3か国語の翻訳のある研究書は稀有なものと思われます。

以上のことから、本書は日米交渉の文献紹介にあっては見落としてはならないと思われる文献でありながら、日米交渉に関する当「インターネット特別展」の文献紹介で掲載紹介されていません。書名も『日米開戦以降の日本外交の研究』とあり、書名から見ても、日米開戦に至る日米交渉に関わる文献として見落とせないものと思われます。

私の上記研究書が「参考文献」に掲載紹介されていないことについては不掲載の意図さえ感じられ、つきましてはこの「参考文献」作成に責任ある者の氏名をお知らせいただき、その上で不掲載が不適切であることにつき何らかの謝罪と、この「参考文献」の中に本書を追加掲載していただくことを要請します。

なお、この文書は内容証明郵便にて送り、公開するつもりであることを申し添えます。

敬白